

認知症カフェ患者が取材

県内各地の認知症カフェを紹介する動画の上映会が先月、横浜市保土ヶ谷区で開かれた。現場で取材やレポートを担当したのは認知症患者。プロジェクトを手がけるNPO法人の担当者は「患者が自宅や病院に隔離されるのではなく、地域の中で活躍できる社会にしたい」と狙いを語る。

(小松大樹)

横浜のNPO



撮影の裏側などを語りながら、取材した横浜市保土ヶ谷区で

紹介動画上映会も 当事者目線でレポート

認知症カフェ 認知症の人や家族、地域住民と介護・福祉の専門家が集まり、認知症について話し合う場。運営主体は市町村や介護サービス事業所など様々で、2022年度の厚生労働省の調査では、全国で8182か所、県内で404か所設置されている。

「今日こちらで開催されるのはオンラインカフェ観覧です。それでは行ってみましょう」。8月28日の上映会で流された横浜市鶴見区にある認知症カフェの紹介動画。認知症を患う鈴木修さん(68)がリポーターを務め、運営者側に「ここはどこかな」などと尋ねた。



完成した動画の一場面。市民セクターとは提携提供

この日は、来場者約40人を前に計6本が上映され、鈴木さんが撮影時の裏話を披露する場面もあった。鈴木さんは「知らないま

約1400トンの収穫を見込む。夏場は各地で米不足が話題になったが、平塚では例年並みの収量が見込まれるという。同センター代表の二宮敏郎さん(70)は「つやつやと甘みがあり、冷めてもおいしい」と話していた。

新米は27日から、同市寺田のJA湘南直売所「あさつゆ広場」などで4.5キロ1950円(税込)で販売される。昨年より150円高いという。

平塚で稲刈りピーク

黄金色たわわ

県内有数の米どころの平塚市で稲刈りが最盛期を迎えている。米作りを担う「平塚中央ライスセンター」が請け負った同市入部の田んぼでは24日、黄金色に実った湘南ブランド米「はるみ」がコンバインで次々と刈り取られた。JA湘南によると、はるみは平塚市内の計約370畝で栽培され、今年はその計

雰囲気やカフェの活動もあり、貴重な経験だった」と振り返る。

このプロジェクト「まちかどプロジェクト」は、NPO法人「市民セクターよこほま」(横浜市中区)が2023年に始めた。取材や映像製作の経験がない認知症患者が健常者とペアを組み、県内のカフェを取材する。事前の下見やカフェ選びも、当事者目線で特徴や違いをカメラの前でレポートする。

プロジェクトは、認知症カフェについて広く知ってもらうだけでなく、患者に

「社会参加」を促す狙いもある。ディレクターや編集を担当する同NPOの小菅聡一郎さん(47)は、患者が病気がからと外出しなくなったため、今までできたことができない悔しさから人との関係を絶つたりする現実を目の当たりにしたという。

近年の研究では、仕事や趣味などで社会とつながりを保つことが認知症の進行を遅らせる効果があると言われている。今年1月には認知症患者との「共生社会の実現」を掲げる認知症基本法も施行された。

小菅さんは認知症カフェ

を取材する中で、患者は想像以上に多くのことができると気づき、「当事者がカメラを前に取材したら面白いのではないかとプロジェクトを思い立ったと語る。活動を通じ、「今からでも新しいことに挑戦できる意欲がわいたら」と期待する。

プロジェクトでは、最終的に18本の動画を作成し、6本完成するごとに上映会を開催する予定だ。最初の6本は同NPOの「まちかどケア」事業のYouTubeチャンネルで視聴できる。

たわわに実った「はるみ」を収穫する農家(24日、平塚市で)



65歳のがん検診 無料クーポン券

横浜市が発送

今年度から65歳のがん検診を無料化した横浜市は24日、4月1日時点で65歳の市民約4万人を対象に無料クーポン券を発送した。

市では、70歳以上のがん検診は無料化しているが、今年度は胃がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん、前立腺がんの検診は、680〜2500円の実費が生じる。

国の調査によると、市内の検診受診率は、60〜64歳